プロジェクトシート

Nr.26

プロジェクト名	スマホと PC を利用したビデオ制作プロジェクト
タイプとレベル	「ライティングと文法」　A2～B1、　「リスニングとスピーキング」A2～B1
期間	授業の後半 30 分を 9 回分＋宿題＋発表会
対象者	週 2 回 1 年間ドイツ語を学習する大学 1 年生（1 年間の授業の成果の総決算）
計画案 （課題、目的、学習対象、利用可能なツール、技術的な前提、進行プラン例）	課題　：各々4 人～5 人程度のグループを作り、6 週間後を期限に 1 分半～2 分程度の長さのビデオを制作する。授業の最終日にその上映会を行う。 目的　：１）学生の持つ創造性をドイツ語学習と結びつける。２）学習したドイツ語を使って自由なテクストを書く経験をする。３）学習したドイツ語を使って何かを表現する経験をさせる。 利用可能なツール： 学生：スマートフォン、外付けマイク（ジャックにさせる指向性マイク 8000 円、またはジャックにさせる延長コードのついた外部マイク）、マイク用ウィンドシールド（2000 円～3000 円）、スマートフォンに付けられるクリップ式撮影光補充ライト 1000～2000 円）、スマホ画像編集アプリ（無料）Power Point、漫画コマ割り作成用アプリ Strip Designer、YouTube、ボイスメモ（iPhone）かボイスレコーダー（Android）、IC レコーダー、読み上げ機能のある各種ソフトウェア（Google 翻訳, Acapela Box, TTSMP3.com Free Text-To-Speech and Text-to-MP3 for German, Free online Text To Speech (TTS) service with natural sounding voices, Text to Speech Reader : German male voice, German Text-to-Speech Service, TEXT TO SPEECH ONLINE TEXT TO VOICE ROBOT, TEXT2MP3）、Glosbe・Reverso Dictionary などのオンライン辞書各種、各種学習管理システム（FLIPGRID, Facebook, Bb9, moodle 等）。 技術的な前提　CALL 教室等が使えれば望ましいが、最低限、教員用 PC が 1 台ネットに接続でき，その画面を提示できれば良い。1 グループにつき、少なくとも 1 人の学生が PowerPoint のアニメーション機能を理解している。 プロジェクト進行プラン ⓪ 準備：１）ドイツ語学習において、どんな形・どんな規模のものでも良いので、プロジェクト型学習を行った経験があることが望ましい。２）教員は、音声読み上げソフトの使い方を実際にデモしながら、学生に使わせ、自分達の書いた

	作文などのドイツ語模範音声を聞かせるなどの形で日常的に使う練習をしておくことが望ましい。 ① 第 1 回と第 2 回 : 課題の提示とグループ分け。プロジェクトの具体的な目標と期限を設定し、それを実現するため各々 4 人〜5 人程度のグループを作らせる。そのうえで、どんなテーマの話にするか、またその話のコミュニケーション上の枠組みとそこで多用される表現手段（文法と語彙）は何かについてグループごとに考えさせる。決まらなかった場合は宿題（＝お互いに連絡を取って話し合う）とする。以下はその例。 テーマ　　：コミュニケーション上の枠組み　－　表現手段 料理法の紹介：手順の説明と指示　－　命令形、数、単位の名詞など 道案内　　：行き先、距離・方向・時間の指示　－　方向を表す副詞、話法の助動詞、命令形など 体験談　　：過去の出来事の説明　－　完了形、時間の言い方 出会い　　：自己紹介など　－　あいさつや自己紹介の定形表現（動詞 heißen/ kommen など） でかける約束：予定をたずねる、待ち合わせを決める　－　時間と場所の言い方、分離動詞 買い物　　：値段や品物についてのやりとり　－　値段、色、評価の形容詞、動詞 finden/ gefallen など 食事のシーン：好み、味についてのやりとり　－　副詞の gern・動詞 schmecken など ② 第 3 回と第 4 回（＋宿題）: テクスト執筆のための準備作業。テクスト執筆のための具体的な準備作業として以下のことを行い、残りは自由作業に当てる。１）選定したテーマに必要となりそうな語彙や熟語の列挙、２）どこで「笑いを取る」かを考える。３）カメラワークの分析。カメラワークの分析のため、既存のビデオ画面から作った画面のコマ割りのラフなスケッチを配り、対話シーンでのそれぞれの画面のアップのしかたや角度などの基本的な技術を説明し、実際の映像と比較させる。 ③ 第 5 回と第 6 回（＋宿題）: 脚本の草稿執筆。テキスト執筆のための準備作業から 1 週間程度の時間的猶予をおいて、最初の草稿を書かせる。教員とのやり取りのための窓口としてグループに 1 人執筆責任者を決めるが、草稿はあくまでグループ全員で作り、不安のある部分は、机間巡視している教員に尋ねる。なお、草稿執筆の際には、原則として習った表現の枠組みを使うことを推奨し、どうしてもそれ以外の表現を使う場合は、次の原則を守らせる。 ・新出の単語を使うときは、「新出単語」シートを作り、当該単語とその日本語訳を記載する。 ・新出の表現や文型を使うときは、その表現を二重引用符で囲んだものキーワードとして Google 検索を行い、実際の使用例があるかを確認してから使う。

	・文法形式は、できる限り習った範囲のものを使う。 ④ 第 7 回（＋宿題）：撮影用コンテの制作と発音。授業でコンテ制作の基本的なテクニックを説明し、ラフな撮影用コンテを作らせる。それを基に、台本の発音練習をする。発音に関しては、ドイツ語読み上げソフトを使いグループ全体で発音を確認する。グループに 1 人音声の責任者を決め、テキストの発音として問題ないか、教員のチェックを受ける。音声の責任者は、台詞の発音練習や撮影の際の発音チェックに責任を持つ。 ⑤ 撮影（第 8 回、原則として授業外・教室外で行う）：グループごとに、スマートフォンの動画撮影機能を使って行う。なお、マイクは、指向性付き小型マイクを使うか、棒の先にマイクを付けて上から録るという形で、外部マイクを使う。 ⑥ 編集（第 9 回、原則として授業外・教室外で行う）：編集については、各グループに編集責任者を 1 人置き、自分達だけで編集できない場合のみ、Teaching Assistant か教員と連絡を取って、編集（必要に応じて字幕付けを）する。 ⑩ 発表会当日：発表会は他のクラスの学生にも公開するか、可能なら複数クラス合同で行う。参加者全員に 1 人 2 票与えて、最後に、良かったと思う発表をしたグループに投票させる（人気投票の実施）。
ポイント	１）「各々4 人〜5 人程度のグループを作り、6 週間後を期限に 1 分半から 2 分程度の長さのビデオを制作し、授業の最終日にその上映会を行いましょう」等の形で、最初に、課題と期限を明示することが重要。 ２）内容面では、見てくれる人が面白いと思ってくれるもの（たとえばオチがある作品）をつくることを課題とする。発表会をやってクラス外の友人を招くこともそうだが、プロジェクト型学習でいちばん大事なことは、観客の存在を意識化させること。作文する際も、演じるための台本であることを意識させることが作品の質向上にとって重要。 ３）観客の前で演じることによる達成感は、表現する側の動機付けを高めるが、その一方で、多数の観客の存在自体が、いわば「あがってしまう」という形の大きなストレスを生む。この傾向は、初級の段階でまだ発音等に自信がない場合とりわけ大きい。しかし、直接演じるのではなく、それを撮影し、上映をするという形の間接的な表現メディアとしてビデオを利用することでこの問題は解決出来る。 ４）作品は、YouTube 上で公開することも可能だが、その場合は、全員の承諾が必要。同意の程度に応じて、グループ内だけの閉じた形にするか、特定のリンクからしかたどり着けない半非公開とする。 ５）ビデオ制作プロジェクトは、授業時間内に限って言えば、上映会も含め実質的に 90 分授業 3 コマ分程度の時間を使うだけでも実現できる。というのも、その多くの作業は、通常の宿題に準じた課題（脚本作成・コンテ作成）や授業外でのグループ作業（撮影や話し合い）によって実現され得るからである。授業における作業は、むしろ、それを可能にするた

	めの準備や指示と位置づける。 ６）プロジェクト型学習では、学生が積極的に関わるという前提があれば、多くの教師が考えている以上に、授業外での作業を学習活動全体の中に取り込むことが可能。案ずるより産むが易しでまずやって見ることが重要。